

発行所  
 長野県北安曇郡  
 松川村立松川中学校3年C組  
 北安曇郡松川村5721-634

印刷所  
 穂高総合印刷

アンケートの詳細 - 2面  
 級説・経済 - 3面  
 歴史 - 4・5面  
 鉄血勤皇隊 - 6面  
 ひめゆり学徒隊 - 7面  
 ユキヒロ・方言 - 8面  
 文化と宝 - 9面  
 沖縄・信州結ぶ人 - 10・11面  
 本に託す - 12面

# 沖縄新聞

## 沖縄の中学生は願う

### 僕たちの沖縄のことを考えて

僕たちは、沖縄県宜野湾市立普天間中学校3年4組に「普天間基地問題」についてアンケート調査をして、結果をまとめました。「他県の中学生は沖縄の基地問題について関心があると思うか」という質問に対して、全体の82・9%の人が「ないと思う」、17・1%の人が「あると思う」と答えました。普天間中学校3年4組では、「他県の人達は普天間基地問題について関心がない」という意識が広がっていることが明らかになりました。

【関連記事2面】

### 長野の中学生「関心がない」

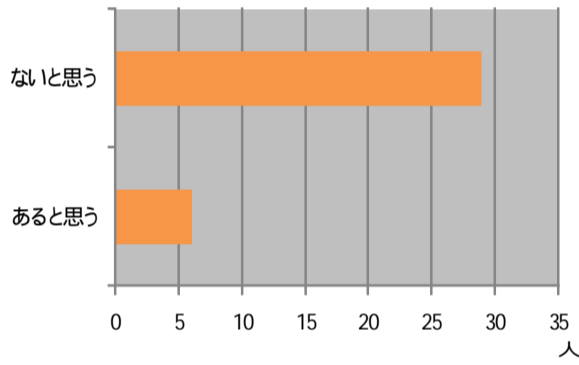
普天間中学校3年4組にアンケート調査を協力してもらったのは、沖縄の事実を知るためには、地元の人に直接尋ねるのが一番の近道だと考えたからです。アンケートは10月下旬に準備し、普天間中学校に渡し、返ってきたのはわずか三日という速答でした。そして、そこには多くの願いがこめられていました。

「他県の中学生は沖縄の基地問題について関心があると思うか」という質問で、「ないと思う」と答えた人は3年4組全体の35人中、29人。この回答から実際に長野



宜野湾市の中心に作られた米軍普天間飛行場。取り巻くように住宅が広がる。 - 写真提供 沖縄タイムス -

他県の中学生は沖縄の基地問題について関心があると思うか



### 基地の被害、沖縄県民の声

県の状況はどうなのか気になったため、僕達は長野県内の中学校にも同じようなアンケートをとりま

した。その結果、基地問題についてあまり知らないと思われ、回答が大半から、沖縄県以外の都道府県で基地問題について関心がない中学校は、まだ他にもあるのではないかと考えられます。

学生には基地問題についてどう考えてもらいたいのかという質問もしました。「沖縄県民に大きな負担があることを深く考えてほしい」という回答が多かったです。その中で、「かわいそう」「うるさそうだな」と簡単に考えてほしくない「沖縄だけの問題ではなく、国」のもつ大きな問題として考えてほしい「基地があると、戦闘機やヘリコプターなどが墜落するかもしれないという恐怖感と、戦闘機がほぼ毎日飛んでいるからうささいという気持ちをしつかり考えてもらいたい」などの回答がありました。

他にも「戦闘機の騒音で音が響いて部活や勉強などに集中できない」「うるさくて会話できない」といった騒音に対する訴えや、「テレビで見ているよりも実際はもっと酷い状況で本当に迷惑している」という、テレビと現場は違うと主張している訴えも少なからずありました。

普天間中のアンケートをまとめていて、一つの回答が目にとまりました。「基地をなくすことが一番の目的ではない。どうして今頃になって移設する計画を立てているのかを考えてほしい」という回答です。これは以前に、長野県内を回って自分の戦争体験を語っている親里千津子さん(親里千津子さんの詳細8面)の講演会で話していた内容の一つに似ていました。

親里さんは講演会の中で、「沖縄戦争のとき、沖縄は日本に捨てられた」と悲しそうに語っていました。

### 戦争時と今、状況は同じ

話によると、戦争時の政府は天皇を守るために、沖縄を捨て駒、いわゆるアメリカの工サとしたそうです。そして政府に、「一人でもいる限り沖縄は戦え!」と命令されたかのように、日本の軍隊は沖縄に優勢するわけでもなく逆に引き上げたのです。これは「捨て石作戦」と呼ばれ、もしこの作戦を政府が実行していなかったら、戦争は一週間早く終わっていたそうです。つまり広島や長崎に原子爆弾が落とされることもなく、戦争によって出た多くの犠牲者

も減らすことができたのです。

この親里さんの話から、戦争中沖縄は日本に見捨てられたことがわかります。普天間の回答「どうして今頃、移設する計画を立てているのか」を言い換えれば、「沖縄が日本に返還されてから今日までの約40年間、沖縄基地問題について日本は何もしなかったではないか」という訴えだといえます。

**3年C組の思い...**

**できることがあるはずだ!**

僕たち長野県北安曇郡松川中学校の3年C組は、沖縄県と長野県では普天間問題に対する温度差が大きいことを知り、そのことについてクラスで話し合いました。この学習を進める前は基地問題や辺野古移設などの問題には全く関心がありませんでした。しかし、多くの人に取材やアンケートをとる学習を進めていくうちに、「本土の人は沖縄に対して全く関心がない。な

にも対応していない。本土と沖縄との温度差が大きすぎる」という事実が気づき、「日本本土の問題なのだから僕たちも何かしなければいけない」と思うようになりました。

「長野県の中学生にこの新聞を読んでもらい、沖縄について関心をもってもらうとともに、沖縄の人の気持ちを考え、行動に移してもらいたい」という願いが僕たちの願いです。

**松風**

2010.12.8

私の好きな歴史上の偉人は坂本龍馬です。彼が幕末に日本を変え、本を生きるために活躍した武士の一人です。NHKでは今年、坂本龍馬の波乱の人生を描いた大河ドラマ「龍馬伝」が放送されました。私も毎週見ているのですが、福山雅治さん演じる龍馬からは、日本を変えたいという強い気持ちが伝わってきました。そして龍馬はこう言っていました。「命を狙われるぐらいのことをせんと、日本は変わらんぜよ」 私たちはこの新聞を作る上で、沖縄県の方々にお世話になりました。彼らからは、沖縄県の基地問題や過去の戦争をより多くの人に知ってもらいたいという強い意志を感じました。私たちが沖縄と他県との「温度差」をなくそうと新聞を作成してきました。そのなかでわかったのは、私たちも強い意志を持って取り組まなければ、この新聞も意味がないものになってしまうということです。だからこそ、日本を変えるために東奔西走していた坂本龍馬のように強い意志を持たなければ、このことを教えてくださった方々に深く感謝します。